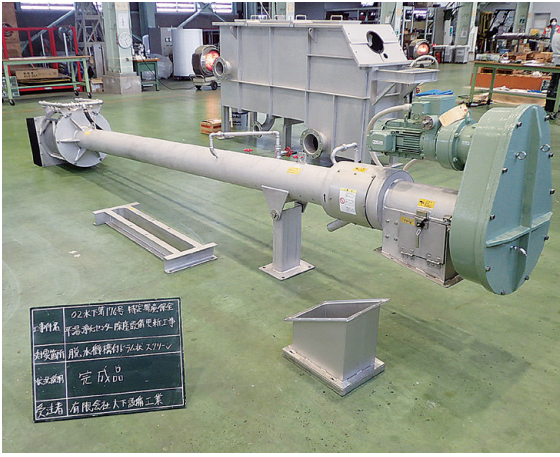


### ③「下水道」施設の老朽化対策

#### 多くの施設を維持

市には、数多くの下水道の施設があり、設備が全体的に老朽化していることに加え、大地震を想定した耐震化も急務になっていきます。これらの設備は特殊なうえに、処理を継続しながら更新しなくてはなりません。そのため、工事の際には非常に高額な費用が必要となります。



古くなった除塵機の更新



#### 計画的な事業の実施

設備の点検をしっかりと行い、部品などを交換し、できる限りの延命化を図ります。また、人口減少による汚水量が減少している設備は、設備の縮小化などを検討し、維持管理費の低減ができるように計画的に実施します。



非常用発電機の設定

下水道の施設（R4・4・1現在）	
処理施設数	49施設
下水道管延長	約770km
マンホールポンプ数	276カ所

### ④「下水道」処理施設の統廃合

#### 50カ所もある施設

市町村合併により処理施設数が50カ所となり、これらの処理施設の全てで維持管理や機器更新を行うことは、莫大な費用がかかり、経営の負担となっています。

#### 維持管理費を削減

このため、隣接する地域へ接続するバイパス管を設置し、処理施設を統廃合することで維持管理や機器更新の経費を削減しています。

現在は、処理施設数を50から33に統廃合することを目標としており、隣接処理区への接続費用は47億円見込まれるものの、経費削減額は100億円を見込んでいます。

